

東京 iCDC 専門家ボード会議（第3回） 議事録

日時：3月30日（火）16時30分～17時15分（web形式）

場所：第1本庁舎42階特別会議室A

出席者：

（座長）賀来満夫先生

（メンバー）中島一敏先生、谷口清州先生、西浦博先生、西田淳志先生、大曲貴夫先生、永井英明先生、石田直先生、宮地勇人先生、三鴨廣繁先生、奈良由美子先生、武藤香織先生、田中幹人先生、松本哲哉先生、國島広之先生、具芳明先生、菅原えりさ先生、片山和彦先生、森田公一先生、松山州徳先生、小原道法先生、吉村和久先生、矢野寿一先生、井上豪先生、井元清哉先生、泉川公一先生、加來浩器先生、中村茂樹先生、高橋聡先生、渋谷智恵先生、

（外部アドバイザー）脇田隆字先生、舘田一博先生、田中耕一先生

1 開会

（賀来座長）

- ・ 現在、大阪、宮城、沖縄を含め感染が急拡大している。都も今日も300名を超える感染者が出ている。専門家ボードに人材育成チームが設置されました。まずは先生方から一言メッセージをいただきたい。

（泉川先生）

- ・ 長崎大学の泉川です。メンバーに加えていただきありがとうございます。

（賀来座長）

- ・ 長崎大学で教育に関するユニットを立ち上げてその中心的なメンバーでもあるということによってiCDCの一つの目的が人材育成なので長崎大学とも連携していきたい。

（加來先生）

- ・ 感染症疫学を武器にして、内科器だったり制御するための教育、研究をやっている。よろしくお願ひ致します。

（賀来座長）

- ・ 青森県でもハース、人材育成プロジェクトを立ち上げていて、その前は宮城県でも

立ち上げていらっしゃる。積極的にご指導いただければと思う。

(中村先生)

- ・ 臨床だけではなく、人材育成という面でもかかわっていききたいと思う。よろしくお願
い致します。

(高橋先生)

- ・ 感染制御・臨床検査医学講座というところにおります。よろしくお願
い致します。

(渋谷先生)

- ・ 看護研修学校の渋谷と申します。感染管理認定看護師の教育を本校では行っている。
神戸の方でも感染管理認定看護師の研修を再開するというので 2021 年度は東京と
神戸で人材育成を行っていく。よろしくお願
い致します。

(賀来座長)

- ・ ご欠席の朝野先生は、大阪府と大阪市の地方衛生研究所が統合した大阪健康安全基盤
研究所に就任されると聞いています。全体の感染症対策、大阪万博の対応、教育的な
ことを主にやられて、ぜひ色々とお力を貸していただければと思う。
- ・ 東京 iCDC の活動状況について加倉井部長から説明をお願いしたい。

2 議事・意見交換

(事務局)

- ・ 東京 i CDC の活動状況について事務局より資料説明

(賀来座長)

- ・ 人材育成チームの先生方、初めてのご参加だと思うが、7 チームが様々な活動をして
いる。感染症の予測にも参加していただいて、縦糸だけでなく横糸といった感じでタ
スクフォース、その中でも活動が行われている。
- ・ 内部の支援をいただくということで国立感染症研究所脇田先生、東邦大学舘田先生に
もご支援いただいている。また、サイエンティフィックアドバイザーとして、島津研
究所の田中先生、東京大学医科学研究所の河岡先生にもご意見をいただいている。
- ・ 東京オリンピック、パラオリンピックを控えて、全国的に感染が広がっている中、日本
を代表する様々な分野のリーダーである先生方が良い政策に結び付ける、国民のため
になるような支援やアドバイスができればいいと思う。
- ・ 活動報告についてご意見、ご質問あれば。

(谷口先生)

- ・ 変異株の割合、分母と分子教えていただきたい。また、ランダムにサンプリングした数字か。

(事務局)

- ・ そのとおり。分母として3700件ほどの検査をした中でN501Yの陽性の検体、36体出てきている。これまでの陽性率は1%ぐらい。民間検査機関含めてそのような数値になっている。

(賀来座長)

- ・ クラスターのところだけ多く検査しているというわけではなく、ばらつきがある程度ある。
- ・ 吉村先生にもお越しいただいているが、N501Yは関西では比較的高いケース頻度だが、東京都では0%~6%前後と低い。

(吉村先生)

- ・ 健康安全研究センターでやっているのはランダムの検査。このほか、クラスターが出たので調べてほしいというのも入っているが、メジャーの検査の量から考えるとほぼランダムでよい。

(賀来座長)

- ・ N501Yのケース頻度が比較的低いのは、健安研でのスクリーニングを始めていたが、集積の仕方をフォローしていたという経緯がある。E484Kが仙台、沖縄で見られているが地域特性があると言われている。
- ・ 4月以降、人材育成チームが立ち上がり8チーム40名の先生方が参加している。
- ・ 予算が計上されているというが、活動費について教えてもらえるか

(事務局)

- ・ 東京iCDC研究調査費ということで2億円ほどの予算が認められている。
- ・ 研究が継続されているもの、新たに始まるものを含め検討していく。

(賀来座長)

- ・ 10月から動きだして、ようやく半年が経とうとしている。色々なガイドラインを含め活動してきた。iCDCはインテリジェンスネットワークのチームなので、先生のこれまでの経験をいかして都庁の政策に反映していくようなことが必要であり、そのためのiCDC。東京都は大きく、様々な部門もあるので、意見調整が必要であるということを理解しているが、できるだけ先生方の意見を反映できるよう都庁と調整していきたい。

(脇田先生)

- ・ 我々政府のアドバイザーボード、分科会、東京 iCDC 中の成果物、西田先生の主要繁華街滞留人口のモニタリングはアドバイザーボードの感染状況の調査でも利用させていただいている。
- ・ 東京の状況は国内の感染状況に大きく影響する。変異株の状況だったり E4 8 4 K の方が東京では主流になっているという状況もあるので、そういう状況を密接に連携して情報共有したい。できる限り色々なチームのミーティングにも参加したい。
- ・ 賀来先生がリーダーシップを持って進めていただいているところであるが、我々も政府と協力してやりたい。

(舘田先生)

- ・ 私も政府のアドバイザーボード、両方担当させていただいているが iCDC は数も多いし、全国的にスペシャリストが入っていて、第三波で緊急事態宣言出した時、政府と自治体の連携がぎくしゃくしたことが記憶に残っている。
- ・ 我々は専門家として意見交換しながら、ワンボイスで活動していくのがいいと思う。

(田中先生)

- ・ 全体というよりも今回、人材育成チームを立ち上げられたことは東京のためだけではなく、日本のために重要だと思う。
- ・ これが収まって平時になったとしても、感染症が起きたときにすぐ対応できる体制に育つということが非常に重要。
- ・ 2016 年に九州で、世界獣医師会、医師会が開かれたときに人獣共通感染症を考えなければならなかった時に医師の方々は非常に重要であるが、政府はそういうことが実際に起こらないとその重要性を考えていただけないとおっしゃられていたのが非常に印象的であるし、今回の体制に十分対応できていなかったのが悔やまれる。
- ・ 人材育成チームが立ち上がったのは東京だけであるかもしれないが、こういう体制が重要であるということを全国に伝える機会になればと思っている。

(賀来座長)

- ・ ボードが一気に動くということ自体、全員の先生からご意見を伺うということもあると思う。4 月以降は各専門領域を議論していただきながら、サイエンティフィックアドバイザーにも入っていただき、今やらなければならないこと、やるべきことを各ボードで考えていただいて、実際に運営していくという形で参加していただいて、それを実践して進めていきたい。
- ・ 各チームでチームリーダーにお願いして取りまとめをしてボード会議をしていきたい。どういうことに取り組んでいくのかということ共有しながら進めたい。

(加来先生)

- ・ 東京都が保健所レベルでの人材が困っているか現状を確認しながらお手伝いしていきたい。東京都では、TEIT という実地疫学チームを作っており、こういうチームをどんどん伸ばしていきながら、他の皆さんに伝達できるような人材の育成のありかたを進めていきたいと思っている。
- ・ アウトブレイク調査のすすめという無償で配布できるものを大学で作成できた。ぜひご活用していただきながら、人材育成に取り組んでいきたい。
- ・ テキストの中にはクラスターの事例集についても書き加えている。

(賀来座長)

- ・ 40名のエキスパート、各チームが情報共有を図りながら、東京の感染が制御できるように先生方のお力を借りたい。

(事務局)

- ・ 人材育成チームの皆様、noteで各ボードのメンバーを作成している。ご不明な点があれば事務局までお願いします。

(賀来座長)

- ・ 感染状況がどのようになっていくのか、また、まん延防止等重点措置をどういう風に出していくのか、東京都も感染が拡大していく傾向にあるが、先生方におかれては、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。